

—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」—

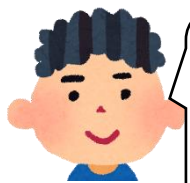
「動」と「静」を組み合わせよう！



【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和3年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、授業づくりのポイントとして、「動」と「静」を組み合わせることについて考えてみましょう。教室の中に、じっと座っていることが苦手な児童生徒や、集中が持続しにくい児童生徒はいないでしょうか。そのような児童生徒が落ち着き、集中して授業に取り組みやすくなるためには、動的な活動と静的な活動を適度に組み合わせることや、行動を切り替えやすくする仕掛けがポイントとなります。落ち着き、集中していることが、「授業がわかる」ことの前提となります。

児童生徒の立場になって、授業づくりや教師の行動について考えてみましょう。



Aさん

体を動かしていることが多い。じっとするのは苦手。(多動性)



Bさん

授業中、静かに過ごしている。注意が逸れやすく、空想していることが多い。(不注意)



Cさん

色々なことによく気が付く。気付いたことがあると、すぐに動いたり話したりしたくなる。(衝動性)



Dさん

一つのことによく集中し、没頭する。活動を切り替えることが苦手で、時間を要する。(感情や行動の調整の苦手さ)

Point 1 動く場面を設定しよう！

★座ったまま上半身を動かさず動作や、立って移動しながら動く動作などを、学習に効果的に取り入れましょう。

- ・ 挙手やジェスチャーで応答する場面をつくる。
- ・ 活動の合間に手指や顔を使う体操をする。
- ・ 移動して友達同士の意見交換をする場面をつくる。

★じっとしていることが得意でない児童生徒に、個別に動ける場面を設定しましょう。

- ・ プリントや教材を配るようになる。
- ・ 道具を取りに行ったり届けに行ったりするようになる。
- ・ 前へ出て発表する機会をつくる。

★思いきり体を動かせる時間を確保しましょう。

- ・ 休み時間には外でたくさん遊ぶようにする。
- ・ 授業の始めに、体操やダンスを取り入れる。



動きがあると、活動に集中しやすいな。逸れた注意がもどるきっかけにもなるな。

体を動かすと、気分転換になって、体がむずむずとしなくなるな。



Point 2 教師の伝え方にも「動」と「静」を！

★聞き手が退屈してしまったり、注意を向け続けることが難しくなってしまうような状況にならないように、メリハリのある話し方をしましょう。



- ・ 動作をつけたり、あえて動きを止めたりする。
- ・ 声の調子（大きさ・高さ・速さ・声色）に変化をつける。
- ・ 立て続けに話さず細かく区切って話し、必要に応じて間をつくることで、児童生徒が思考する時間を確保する。
- ・ 大切な話の前には、あえて動きを静止し、集中を促す。大きすぎない声でゆっくりと話す。

Point 3 「静」を大切にしよう！

★静かにしてから、活動を始める習慣をつけましょう。
数秒間でも静寂をしっかりと味わい、「静」を意識化していくことが大切です。

- ・教師は、その場が静かになってから話し始める。
- ・話や音楽を「聴く」前に、静寂の時間を設ける。



静かだと気持ち落ち着いて、切り替えやすくなるな。
耳を澄ませる感覚がわかるな。

★静かにしやすい状況づくりを工夫しましょう。

児童生徒によっては、突然静かにすることや、ずっと静かにすることは難しい場合があります。

- ・動いた後に止まる／思いきり声を出した後に黙るようにする。
- ・小さな声や音を、消え入るまでしっかりと鑑賞する活動をする。
- ・短い時間でも静かにできたことを褒め、再度動いたり声を出したりしてよい状況をつくる。

★動きや音の「ON」と「OFF」を明確に示し、メリハリのあつ状況をつくりましょう。

- ・音楽の再生と停止に合わせて、動きや声を「ON」「OFF」する活動をする。
- ・静かにする合図を決め、習慣化を図る。

動いた後の方が、止まりやすいよ。
音や動きで極端に示されると、自分の動きを調整する感覚がつかみやすいな。



Point 4 活動の見通しをもたせよう！

★授業の流れを視覚的に示し、「静かにする時」「動く時」等が一目で分かるようにしましょう。
「後で動く活動がある」「後で発言する機会がある」等ということが分かることで、安心して落ち着いて過ごしやすくなることがあります。

- ・授業の流れをホワイトボード等に示し、確認する。
- ・「今、何の場面か」が分かるように、授業の展開に合わせて印を付け、確認する。
- ・一つ一つの活動の始まりと終わりを明確に伝える。



おもしろいことに気が付いたぞ。この後の発表タイムで、みんなに伝えようっと。今は少しがまんだな。

★行動を切り替える場面では、少し前に確認し、心構えができるようにしましょう。

場面が替わる時には、体や心の準備ができているか確かめましょう。

- ・「〇〇タイムはあと3分です。」「次は〇〇をします。」等と事前に端的に伝える。
- ・「聞く準備はできたかな？」等と確認してから活動を始める。

事前に気付けると、心の準備がしやすいよ。



★行動を切り替えやすくなるような工夫をしましょう。

- ・タイマーの音や音楽を用いて合図を出したり、気分を変えやすくしたりする。
- ・児童生徒が行動を切り替えようとしている時には、必要な時間待つ。



きっかけがあると、切り替えやすくなるよ。



児童生徒の体や視線の動きをよく観察し、「どのような状況の時にどのような反応をするのか」「集中している時はどのような様子か」等を把握していきましょう。そして、児童生徒の様子に応じて授業構成や教師の振る舞いを工夫し、障害の有無にかかわらず、「誰もが過ごしやすい教室」「誰もが参加しやすい授業」を目指していきましょう。